

令和6年度 第2回学校運営協議会 報告

1 日 時 令和6年8月1日（木）午前9時30分から11時30分まで

2 会 場 本校 会議室

3 出席者等

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校長（地域コーディネーター）

【委員②】中村町自治会長

【委員③】静岡市大里生涯学習センター長

【委員④】ありんこの里管理者

【委員⑤】本校PTA会長

【委員⑥】小糸製作所人事部企画課

(2) 校内教職員

校長、副校長、事務長、各学部主事、地域支援部長、教務課長、生徒指導課長、研修課長、自立活動課長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 自己紹介

(4) 1学期の取組報告

(5) 協議等

(6) 学校応援活動

(7) 閉会

5 協議等内容

(1) 校長挨拶

- ・先日、静岡市が日本一暑い都市になったという報道が出た。本校でも猛暑の影響により、プールの中止等教育活動にも影響が出た。1学期を振り返ると、各学部それぞれ充実した取組ができたと思う。また、昨日は中学部の三豊卓球大会だった。以前は三豊間の交流活動が盛んだったが年々減ってきている。このような大会での交流の場を大切にしていきたい。また、今日は「共生社会の担い手」を育む学校となるためにできることについて協議の時間を設けた。学校は社会に出ていく子どもたちを育てるということを再認識し、どのような力を育み、経験を積み重ねていくか多くの御意見をいただきたい。

(2) 協議等

ア 1学期の取組報告（学校経営計画の取組状況）

（校長から目指す姿に向けた取組状況について、前期学校評価アンケート結果を基に説明）

- ・目指す姿の各項目は、昨年度教職員が「子ども達に必要な力」として、どのような取り組み方法で達成できるか考えたものである。
- ・「いいね！」が0の項目については、児童生徒に丁寧な聞き取りを行い、今後の取組手段について再検討し、2学期以降取り組んでいきたい。
（各分掌課長より、資料を基に説明）
- ・教務・情報課は、キャリアパスポート（交流のしおり）を活用し、交流及び共同学習の取組の充実を図った。実際の交流活動だけでなく、事前事後学習の中で、目標達成に向けて意識することや次回の交流に向けて日々の学校生活や授業にどのようにつなげていくのか

を明確にした。

- ・生徒指導・防災課は、防災・防犯訓練や教員向けに防災研修、人権研修を行った。防災・防犯訓練と併せて、生徒自身が防犯意識を高められるようにテーマについて話し合う活動を行ったり、Google フォームアンケートを利用して防災訓練の振り返りを行ったりした。
- ・健康安全課は、今年度から体力向上・身体を動かす機会を作るなどの目的で月1回のスポーツデイを実施している。児童会や生徒会を中心に、全学部で参加できる内容を考え、取り組んだ結果、子ども達のたくさんの笑顔が見られた。また、もう1つの取組の「セルフマネジメント」については、1学期はどのような形で実施すると良いか試行錯誤しながら取り組んできた。スクールカウンセラーの意見を取り入れながら2学期以降も取り組んでいく。
- ・自立活動課は、聴覚障害児についての理解を深めるとともに、専門性を高め、子ども達の自立に向けた教育の充実を図るために取り組んでいる。大きな柱として「ことば」と「きこえ」があり、「ことば」についてはトイレに「スキルちゃん」を掲示し先生たちの意識を高めている。また、「きこえ」については校内人材を活用したり外部講師を招いたりして研修を積み重ねている。
- ・研修課は、教員の「授業力向上」を目標に取り組んだ。先日開催した夏季研修では、全学部の教員が入り混じった縦割りグループで活動を行った。子ども達だけでなく、教員も主体的に学ぶ姿勢を大事にし、引き続き授業力向上を目指して取り組んでいく。
(各学部主事、部長より資料を基に説明)
- ・幼稚部は昨年度に引き続き「おたまじゃくし取り」を行った。この活動をとおして、家で大切に育てる、死んでしまったおたまじゃくしの墓を作る等様々な体験をすることができた。また、今年度は「お米作り」にフォーカスし、田植えから稲刈り、精米になるまで等、興味関心の幅を広げていく。
- ・小学部は新1年生が加わりさらにパワーアップした。今年度は話し合い活動に力を入れているが、子ども達の経験が少なく、既知の事柄を基にした意見が多いため話の幅が狭くなりやすい。話し合い活動をさらに充実させていくために、1学期は新しい出会いや経験を意図的に増やした。2学期も継続して取り組んでいく。
- ・中学部は「思考力や表現力を高める」ために委員会活動の充実を図った。昨年度より委員会活動の時間を増やし、取り組んでいる。生徒が中心となって活動を計画し取り組んでいるので、今後はそのことについての評価までできるようにしていきたい。
- ・地域支援部は、「通級生のつどい」や「難聴理解授業」、「難聴児支援講習会」を開き、聴覚障害教育への理解、支援を深めるようにした。今後も通級生が、自身の聞こえについて自己理解を深めたり、周囲に主体的に働きかけたりできるように支援の充実を図っていく。

イ 委員からの感想等

- ・学校が、生徒が社会に出た時のことについて考え、それぞれの特性を生かした取組を行っているのがよく分かった。
- ・家だけでは経験数が足りない、親が気づかない経験を学校でさせてもらっていることが分かった。
- ・学校外での交流体験をとおしていろいろなことを育んでいると感じた。
- ・地域を利用した活動（中村町、遠足）が地に足がついていて良いなと思った。
- ・授業で得られるものだけでなく、貴重な体験をしている。コミュニケーションを重視した取組を行っていると感じた。コミュニケーションは社会に出ても本当に大切だと思う。
- ・昔の良さを大事にしながら、新しい取組もあり、一人一人の子ども達を大事にしていると感じると共に、良い方向を向いているとも思った。

ウ テーマ「共生社会の担い手」を育む学校となるためにできることを考える

動画「江戸川区公式チャンネル 共に考える未来に姿 実現を目指して」の視聴及び、意見交換

○共生社会のイメージについて

- ・子ども達が「私たちにできることは？」と考えている
- ・「やってもらう、してもらう」から、「わたしたちからはたらきかける」に変える
- ・自分のことも相手のことも好きと思える社会
- ・自分を理解し、能力を磨き、強みを見つけて生きていく
- ・子ども達だけでなく、大人も意識していく
- ・様々な個性を認め合う社会
- ・社会に発信していく
- ・些細な意見も取り上げられる社会
- ・孤独を感じない社会

○共生社会の担い手になるためにどのような力を育みたいか

- ・「察する力」から「語彙力・表現力」の強化、メンタルの強さ
- ・「受け身」からの脱却
- ・取り組んだことに対して「評価」をし、次につなげる力
- ・表情、人情、あいさつ、
- ・率先して手を差し伸べられる
- ・考え続けられる力
- ・「理解してもらう」から「理解しあう」へ

○子供たちが学校時代にどのような経験をしたいか。

- ・達成感が得られる経験
- ・リアルな体験の積み重ね

(3) 学校応援活動について

運営委員の方々に以下の取組に参加いただいた。

ア 「児童生徒の心身のセルフマネジメントの促進」の取組

- ・心のリフレッシュ方法（セルフマネジメント）について、様々な場面別シチュエーションについてセルフマネジメントの仕方をふせんに記入後、発表

イ 自己紹介カードの作成、後日校内掲示